

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	青葉の風
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県仙台市
記入者名 (管理者)	庄子 清典
記入日	平成 19年 12月 24日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	現在よりも広い範囲で地域の方に立ち寄っていただける様な関係づくりを地域密着型運営推進委員会等を通して活発にしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	八幡町や川内で行われるお祭り等に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設事業所との話し合いや運営推進会議の中で検討している。	○	運営推進会議にてAED設置の提案があり、検討中である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし、改善項目が入居者にとってベストな状態で提供される様、評価を受けた後は職員間で話し合い工夫に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2ヶ月に一度の開催ができなかった。開催時は報告や話し合いを行い、意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者クラスで支援体制をしいている。支援の機会がある際に会議内において学ぶ機会がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で研修を行っている。	○	研修への参加や勉強会を活発にし、職員ひとりひとりが虐待防止について意識を高められる機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と理解・納得を図るよう努めている。	○	日頃から、利用者や御家族が相談しやすい雰囲気づくりに配慮していきたい。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見の言い易い雰囲気作りに努めるとともに、意見箱を設置するなどしていつでも意見が出せる体制をとっている。また、家族会を活用して様々な意見を取り入れている。	○	受け付ける体制があり、特に目立った苦情がこれまでにないが、言いたくても言えない環境をつくっていないか常に確認を心がけ、発生時は迅速に反映させていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	文の日や家族会等で報告の機会を設け、定期的な金銭管理状況の報告も行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時も管理者や職員が席を外して家族だけで話し合う機会を設けたり、匿名のアンケートを実施しサービスの質等や要望、率直な意見を伺える様工夫している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画書作成時に職員より意見書を提出してもらい、全体会議で話し合っ反映させるようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夕食時や夜間入浴時に人員の厚みが必要となり、話し合う機会を設け、10月より実施している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者及び職員は基本的に異動しないようにしている。もし、職員が退職する場合には、引継ぎ期間をできるだけ長期間に設定し、利用者へのダメージ削減に努めるようにしている。しかし、職員の補充が年々難しくなっている。	○	昨年度に比べ職員が代わる機会が多く、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮してきたが、防げたとはいえない。また職員の育成等に関してしわ寄せが発生してしまった様思う。現在落ち着きはじめてところなので、職員の定着に努め、今回の例を活かして対応できる力を養っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議の都度研修を実施するよう努めている。また、日常業務の中でOJTによる育成を大切するだけでなく、併設施設の行事への参加の際に、ベテラン職員との交流を通して学んでもらえ機会を設けるように努めている。	○ 18. の状況により、十分な研修ができたとは言えない。働きながらのトレーニングも職員の力量に応じ、目標を持たせながら行っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仙台市内のグループホーム協議会に参加し、協議会の他会員と交流の機会や相互訪問を実施している。	○ 19. に同じ
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が職員一人ひとりの意見や想いを聴いたりアドバイスをしたりするための面談を実施するよう努めている。	○ 利用者の生活を守ることを突き詰めていくと、職員の勤務状況等に負担がいき、リフレッシュできる時間が少ない様に思われる。限られた時間の中でも効果的にストレスを軽減できる環境を提供していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課により取り組んでいる。	○ 管理者が状況を把握する機会にも限界があるので、現場の責任者からの報告の機会を増やしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	1対1でのコミュニケーションの場を意識してつくり、意向を汲み取れるように努力している。	○ 本音を気兼ねなく話していただける関係を築きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会の際や電話等によって、聴く機会をつくり努力している。家族会で話し合う機会があり、一個人では言いにくい意見も出しやすい様になっている。(無記名によるアンケート等)	○ 相談に応じられる職員がいつも居るとは限らず、不十分さを感じるところは補っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めの難しいケース等上司へ相談しながら対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する際は、情報を持ち寄り会議等で話あった上で、馴染んでいただける環境を整えてから行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアされるケアも念頭に、職員は本人が自分らしく生活できる距離感を大切にしながら支援している。	○ 介護度が重度化してきている方に対しても、できることに目を向け、作業やコミュニケーションを通して良い関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	近況報告、行事のお誘いなどにより面会や行事に来ていただけるよう働きかけて、実際のお元気な状況をお伝えできるよう努めている。日常的にコミュニケーションがはかれる関係を築きながら、状況が変化した際には一緒に支えていける関係となれるよう努めている。	○ 特に面会の少ない御家族へは意向をうかがう機会を増やし、関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族より情報をいただき、入居者・御家族の関係や付き合い方について話し合い、支えていく関係づくりに努めている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を元に、出来る限り今までの生活環境が保たれるように、通院やお店、美容院等が継続されるようにしている。法事への出席等。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとりひとりの個性を踏まえ、円滑な人間関係が保たれるようにしている。会議等において話し合いの機会をもっている。	○ 解決されない方について更に努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も相談を受けたり、助言、援助を継続した御家族がいる。契約終了の際も、気兼ねなく相談をしていただけるよう声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別や日常会話の中から意向を把握する様に努めている。生活暦などを参考に本人本位となるよう気をつけている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お茶のみの時間や1対1での会話の時間に生活暦を聞きだす時間を設けている。御家族からは面会時の仲介の際や、ケアプラン作成時や説明時に聞き取りを行っている。	○	その方に沿った生活環境の提供が難しく再現できない方にはより努力をしていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状況が把握されやすい記録の工夫をし努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを使用しながら課題を抽出するカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。	○	御家族を含めた合同の話し合いの機会がなかなか持てないので検討していきたい。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しは行っている。	○	変化が生じた場合は一定期間様子を見た上でプランを随時変更し、より良いサービスの提供を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しにつながる様な個別記録の様式を工夫するなどして、情報を共有しそれをもとに意識しながらサービスを提供できるようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な支援をこころがけている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域福祉施設等と協力しながら支援している。	<input type="checkbox"/> 入居者の日々の生活の楽しみと地域交流の機会として、ボランティアの協力を増やせると良い。
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、他の介護保険サービスの必要性は感じていない。	
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人として権利擁護や総合的かつ長期的ケアマネジメント等の支援をしている。	
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月1回の往診や、受診、緊急時等で相談したいことがある時は常時連絡がとれるような体制をつくっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>重度の認知症の方に関しては認知症に詳しい医師に診察していただき、必要な治療(薬の処方等)を行っていただいている。</p>	○	<p>認知症の進行が見られた際は専門医に相談し、迅速な対応をとっていきたい。</p>
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>併設する特養の看護師に診ていただいたり、助言をもらっている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の状況となった場合に、職員も付き添い医師の説明時に立会って御家族をサポートするように努めている。病院関係者に対して、利用者の普段の生活ぶりや認知の度合いを説明し、御家族の希望に沿いながら早期退院につとめる働きかけを行っている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期のあり方がそれぞれ違うので、毎回模索しながらも方針を共有し行っている。</p>	○	<p>急変時の対応について職員の中で不安があるので、対応できる体制をつくっていきたい。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末に近づいてくると、「できないこと」を「できない」と言い辛くなる傾向がある。</p>	○	<p>「できないこと」を他職種と連携をとりながら対応していきたい。</p>
<p>49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人のリスクについて十分話し合い、移り住むことによるメリット・デメリットを挙げ、本人にとってのダメージを最小限に防ぐように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は事務所内で保管し、プライバシーやプライドには特に気を付けている。	○	気をつけて対応しているが、馴れ合いになって無意識に行ってしまうように、時々職員間で確認作業の機会を設けたい。又、職員の接遇に関しての勉強会を定期的に行う。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その時に訴える言葉と、もう一方で本当に言わんとしている意思を汲み取る作業を心掛けて、その方に伝わるコミュニケーションをとっている。また、ペースを守り、納得されるタイミングを確認している。	○	職員によってその加減が難しい時があるので、人材育成に努めたい。利用者の気持ちを理解することが難しいが、希望等を汲み取る努力を更にしたいたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝・昼・夜と職員間の申し送りの時間を持ち、状況の把握をした上で希望に沿った活動が出来るよう臨機応変に対応している。実施する様心掛けてはいるが、一人ひとりの希望の引き出しが難しいこと、その日の職員数が不足していることから十分な対応が出来ていないこともある。	○	積極的に意思を主張されない方の聞き取りも意識しながら、一部の方だけの提供にならないように気をつけて行きたい。また、職員の育成も必要である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染の美容室を継続できる様支援したり、お店を選択できる環境づくりに努めている。また、身だしなみやおしゃれに気をつかう方に用具や機会を提供している。	○	外出時等には一緒になって洋服選びを行っているが、普段の生活においても、更に身だしなみには気を配った支援を行いたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況に応じて対応している。食事の準備や片付けの参加状況を話題にしたり、労いの言葉を掛けることによって感謝の意を伝え充実感を得ていただけるよう心掛けている。食材の買い物も出来る方と一緒にしている。	○	食事の栄養バランスにも気を使いたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的には行っていないが、行事やお祝い事の際には、飲まれる方には希望を伺いお酒をお出ししている。また、こちらからの促しにて、時々晩酌も行っている。	○	ご希望に沿っている方と丁度良い頻度等を探っている状況の方といらっしゃるの、ご希望に沿って提供したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表等を用いて、排泄パターンを把握することでその方に合ったトイレ誘導を行え、失禁の減少が見られる。	○ 排泄状況が以前に比べ少しずつ低下してきている方が増えてきており、自尊心の強い方への支援や排泄間隔の把握について検討の段階にある方へ迅速に対応していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの習慣やタイミングを大切にしながら支援している。夜間浴も行っている。	○ 個室での入浴が困難になってきた方(1名)に関して、リフトの設置を検討中。状況の変化に応じ見直しを行い、都度対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの起床時間に配慮したり、日中の適度な活動を提供して安眠へつながる様に働きかけている。また活動に没頭し疲れやすい方には一定の休息がとれるよう声掛け等で調整を図っている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ほとんどの方は支援できているが、男性お一人だけ満足いくまでのサービスを提供できているとは言えない。	○ 個別の役割提供、本人の能力の見極めを明確にし、一人ひとりが活き活き生活できるよう支援したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に買い物の機会を通して支援している。また会話の中で物やお金の価値観を伺う機会を設けている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	努力はしているが人員により対応できないときもある。	○ 日々の業務の工夫。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	予定を立てて実施している。	○ 近場への日帰り旅行等計画したい。又、個別の聞き取りを普段から行い希望に沿った外出を支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、塗り絵や文字を書く機会として、季節ごとに送る支援をしている。	○	電話については、利用者からの要望があまり聞かれず、使用回数が少ないので、遠慮なく自由な雰囲気作りをしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や談話室を活用し、職員からはお茶の提供や近況をお話し、入居者の方と訪問された方の仲介を行っている。	○	入居者と御家族の居心地の良い場所が一致しない場合、十分とは言えないので、セッティングに配慮したい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加や会議内での勉強会の機会を持ち、正しい理解に努めており、いまだ身体拘束はしたことがない。	○	職員間にて更に勉強会を行い、必要であれば外部から講師を招き、理解を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部の門扉に関して、建築上自動ロックになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	お茶や食事の時間、またその他の時間も所在確認を声掛けや状況観察を兼ねながら行っている。夜間は巡回を設け、睡眠を妨害しないように行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりに会った対応をしている。包丁に関しては、使用しない時間帯で保管管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	可能の高い人や、時間帯に合わせ人員を厚くする等、発生や状況悪化の防止に努めている。	○	職員の人員確保資質向上(勉強会等)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の入替わりにより初任研修等での周知が不十分である。	○	マニュアル等を作成し対応の統一を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併施設との合同避難訓練等により実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	お一人おひとり、それぞれの段階に合わせ話し合いの機会を設けている。管理者、介護責任者、担当職員から状況にあった職員によってお伝えする等の工夫をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定・様子観察を行い、早めに体調の変化に気付けるようにしている。特変時はかかりつけ医への相談や・受診の有無の相談をし臨機応変に対応している。	○	引き続き早期発見・対応が出来るように、ターミナルケアに差し掛かっている方には特に注意を払い、普段お元気な方に関しても小さな異変を見逃さないように観察していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	周知事項として職員がいつでも閲覧できるようにケース記録に種類・用法を書いており、支援と確認作業に努めている。	○	薬についての理解をもっと深めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を積極的に促している。便秘がちな方にはきなこ牛乳や野菜ジュースを提供し、食物繊維を併せて摂って頂いている。又かかりつけ医の指示により酸化マグネシウムを服薬している方もいる。	○	排泄についてのプロフェッショナル(ユニチャーム)の講義を受けるかどうかの検討中。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・昼食時・就寝時に口腔ケア実施。	○	朝食後が人員不足の時があり不十分。時間差があっても援助していきたい。又2・3ヶ月に1度でも歯科医に口腔内の状態をみて頂く機会を設けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の活用にて1日の食事・水分量の把握をしている。普通食が摂取困難な方には刻み食や代替食品の提供を行っている。	○ 個々人の摂取状態の確認見直しを行い、より楽しく・美味しく食事が出来るように食事形態等の工夫をしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種については年1回実施。マニュアルを作成し守るようにしている。	○ 引き続き感染症予防に努め二次感染を引き起こさないよう職員の意識を高め、発症した場合には満延しないよう徹底した対応を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週間業務に組み込み消毒を行っている。食材については週2回購入し使用しているが、厳密に行き届いているか特に目に見えないものに関しては不安が残る。	○ マニュアル等による周知・徹底をはかる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉の自動ロックの状況から気軽な出入りが出来る印象はないが、周辺のたて看板等で工夫している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジカセの音に配慮している。七夕やクリスマス等の時期には飾りつけも行っている。	○ 生活感を壊さない範囲で季節感のある空間作りを更に工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場面の応じた空間や関係作りを支援している、日によって落ち着く居場所が定着出来ない方がおり、満足感を与えられる働きかけをしている。	○ 一人ひとりの居場所作りが利用者の生活レベルに影響するので、常に本人にとって居心地の良い空間であるよう配慮したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染のある家具の持ち込みを積極的に取り入れている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温・湿度の変化に応じ、加湿器・エアコンを使用し調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方でも使用できるスペースの広いトイレや、シンク・洗面台の高さ、居室前の腰掛ベンチ、建物内部の所々に使いやすさを考えた手すり等を設置している。	○	身体機能の低下によって、浴槽へ入ることが困難になってきた方を、安全に気持ちの良く入浴していただける様にリフト浴の設置を手配中。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方が理解しやすい言葉を選びながら伝え方に気をつけている。お一人おひとりの出来ることを把握し、意欲を持って取り組めるような対応・働きかけに努めている。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでの外気浴・園芸作業・屋上の畑等生活暦を活かした活動ができる場になっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お一人おひとりの生活習慣や好みを大切にしながら、その人らしく生活できるようなケアを心掛けている。一日三餐、職員と利用者が手作りにより食事を作っており、利用者の役割を提供できるように努めている。また、通院その他のすべてに職員が共に関わることにより、一層家族的な関係を築くことができている。